

はじめに

登録販売者試験の出題範囲として、厚生労働省のホームページには「試験問題の作成に関する手引き」が公表されています。これは、登録販売者試験の作問の“手引き”となっているため、これに従って学習を進めることが、登録販売者試験の合格への王道になります。

本書は、この“手引き”の出題ポイントを浮き彫りにし、正しい理解を促すための問題集として、登録販売者試験制度の開始当初より発行し改訂を繰り返してきましたが、実際の試験への対応力を飛躍的に向上させるべく、このたび全面的に刷新しました。「試験対策 484 問 出題範囲を総ざらい」、「登録販売者試験の作問パターン」、「模擬試験 2 回分」の三部構成に改めるとともに、解答編を別冊にし、切り離して利用できるようにしています。

出題範囲の総ざらいができる「試験対策 484 問 出題範囲を総ざらい」は、一度解いて終わりにせず、繰り返し解きながら学習していくことをお勧めします。通常の解説に加え、暗記の難しい漢方・生薬については、“ごろ合わせ”による覚え方も併記しております。

登録販売者試験では、“手引き”の内容に加工を施して作問が行われますが、その加工の方法にはいくつかの特徴があるため、これを知っておくと有利になる場合があります。代表的な試験問題の作成法を「登録販売者試験の作問パターン」としてまとめておりますので、作問のクセをしっかりとつかんでおきましょう。

最後に「模擬試験 2 回分」を掲載しています。これらの模試は、実際の試験と同等の難易度になっています。また、実際の試験でも同様の問題が出題されることとなりますので、試験対策に大いに活用ください。

本書は、シリーズ本の「登録販売者試験テキスト&要点整理 改 手引き(平成 30 年 3 月 対応)」及び「令和 2 年版 全国登録販売者試験過去問正解」と併せてお使いいただくと、すばらしく良好な学習効果が得られます。

なお、令和 2 年春に「試験問題の作成に関する手引き」の改定が行われた場合には、薬事日報社のホームページ「http://www.yakuji.co.jp/book_electronic-media」に、本書に影響が及ぶ範囲について掲載しますのでご確認ください。

末筆ではありますが、登録販売者試験に挑戦される皆様の合格を心より願っております。

令和 2 年 春
團 野 浩

目次

登録販売者試験の概要 ii

試験対策 484問 出題範囲を総ざらい

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識	
1-I 医薬品概論	3
1 医薬品の本質	3
2 医薬品のリスク評価	4
3 健康食品	5
1-II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因	6
1 副作用	6
2 不適正な使用と有害事象	8
3 相互作用と飲み合わせ	9
4 小児・高齢者・妊婦、授乳婦等への配慮	10
5 プラセボ効果	13
6 医薬品の品質	13
1-III 適切な医薬品選択と受診勧奨	14
1 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲	14
2 販売時のコミュニケーション	15
1-IV 薬害の歴史	15
第2章 人体の働きと医薬品	
2-I 人体の構造と働き	18
1 胃・腸、肝臓、肺、心臓、腎臓などの内臓器官	18
2 目、鼻、耳などの感覚器官	25
3 皮膚、骨・関節、筋肉などの運動器官	27
4 脳や神経系の働き	29
2-II 薬が働く仕組み	31
1 有効成分の吸収・代謝・排泄	31
2 薬の体内での働き	32
3 剤形ごとの適切な使用方法	33
2-III 症状からみた主な副作用	34
1 全身的に現れる副作用	34
2 精神神経系に現れる副作用	36
3 体の局所に現れる副作用	37
第3章 主な医薬品とその作用	
3-I 精神神経に作用する薬	40

1	かぜ薬	40	
2	解熱鎮痛薬	42	
3	眠気を促す薬	45	
4	眠気を防ぐ薬	46	
5	鎮暈薬(乗物酔い防止薬)	47	
6	小児鎮静薬	48	
3-II	呼吸器官に作用する薬	49	
1	鎮咳去痰薬	49	
2	口腔咽喉薬と含嗽薬	51	
3-III	胃腸に作用する薬	53	
1	胃の薬	53	
2	腸の薬	55	
3	胃腸鎮痛鎮痙薬	58	
4	浣腸薬	59	
5	駆虫薬	60	
3-IV	心臓などの器官や血液に作用する薬	61	
1	強心薬	61	
2	高コレステロール改善薬	62	
3	貧血用薬(鉄製剤)	63	
4	その他の循環器用薬	64	
3-V	排泄に関わる部位に作用する薬	65	
1	痔の薬	65	
2	その他の泌尿器用薬	67	
3-VI	婦人薬	67	
3-VII	アレルギー用薬	68	
3-VIII	鼻に用いる薬	70	
3-IX	眼科用薬	71	
3-X	皮膚に用いる薬	74	
1	殺菌消毒成分	74	
2	痒み・腫れ・痛みを抑える成分	75	
3	肌の角質化・かさつきを改善する成分	76	
4	抗菌成分	77	
5	抗真菌成分	77	
6	頭皮・毛根に作用する成分	78	
3-XI	歯や口中に用いる薬	78	
1	歯痛薬と歯槽膿漏薬	78	
2	口内炎用薬	80	
3-XII	禁煙補助剤	80	
3-XIII	滋養強壮保健薬	82	
3-XIV	漢方処方製剤と生薬製剤	84	
1	漢方処方製剤	84	
2	その他の生薬製剤	85	
3-XV	公衆衛生用薬	86	

1	消毒薬	86	
2	殺虫剤と忌避剤	87	
3	—XVI 一般用検査薬	89	89
1	一般用検査薬とは	89	
2	尿糖・尿タンパク検査薬	90	
3	妊娠検査薬	90	

第4章 薬事関係法規・制度

4	—I 医薬品医療機器等法	92	92
4	—II 医薬品等の分類と取扱い	93	93
1	医薬品の定義と範囲	93	
2	法定表示と法定記載	100	
3	医薬部外品・化粧品と食品	102	
4	—III 薬局と医薬品の販売業	106	106
1	許可の種類と許可行為の範囲	106	
2	医薬品の販売方法	112	
3	医薬品の情報提供の方法	115	
4	医薬品の陳列	118	
5	薬局と店舗における掲示	119	
6	医薬品の特定販売	120	
7	偽造医薬品の流通防止	121	
8	薬局開設者と医薬品の販売業者の遵守事項	122	
4	—IV 医薬品の販売に関する法令遵守	124	124
1	適正な販売広告	124	
2	不適正な販売方法	126	
3	行政庁の監視指導と処分	126	
4	苦情相談窓口	128	

別表4-1 医薬部外品の効能効果の範囲 128

別表4-2 化粧品の効能効果の範囲 129

別表4-3 特定保健用食品：これまでに認められている主な特定の保健の用途 129

別表4-4 栄養機能食品：栄養機能表示と注意喚起表示 129

第5章 医薬品の適正使用・安全対策

5	—I 医薬品の適正使用情報	130	130
1	添付文書の読み方	130	
2	製品表示の読み方	135	
3	安全性情報の提供	136	
4	安全性情報の活用	137	
5	—II 医薬品の安全対策	138	138
1	医薬品の副作用情報の収集・評価・措置	138	
2	医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の報告の方法	140	

5-III 医薬品の副作用による健康被害の救済	141
1 医薬品副作用被害救済制度	141
2 医薬品副作用被害救済制度の案内	142
3 医薬品 PL センター	143
5-IV 一般用医薬品に関する主な安全対策	144
5-V 医薬品の適正使用のための啓発活動	145
別表 5-1 「してはいけないこと」	146
別表 5-2 「相談すること」	149
別表 5-3 医薬品・医療機器等安全性情報：一般用医薬品に関連する主な記事	151
別表 5-4 企業からの副作用等の報告	152
別表 5-5 医薬品安全性情報報告書	152

登録販売者試験の作問パターン

作問パターン A おかしい用語への置き換え	155
作問パターン B 反対語への置き換え	156
作問パターン C 用語の入れ替え	158
作問パターン D 主語の入れ替え	159
作問パターン E 数値の改変	161
作問パターン F：番外編 出題範囲外からの作問	163
作問パターン G：番外編 解なしの問題	165

模擬試験 2 回分

登録販売者模擬試験 A (第 1 部)	169
登録販売者模擬試験 A (第 2 部)	181
登録販売者模擬試験 B (第 1 部)	193
登録販売者模擬試験 B (第 2 部)	205

別冊 解答編

試験対策 4 8 4 問 解答

第 1 章 医薬品に共通する特性と基本的な知識	218
第 2 章 人体の働きと医薬品	221
第 3 章 主な医薬品とその作用	226
第 4 章 薬事関係法規・制度	242
第 5 章 医薬品の適正使用・安全対策	250

模擬試験 2 回分 解答

登録販売者模擬試験 A	254
登録販売者模擬試験 B	267

登録販売者試験対策問題集 改
手引き(平成 30 年 3 月)対応



試験対策 484 問

出題範囲を総ざらい

試験対策 484 問
を解きながら、

登録販売者試験の出
題ポイントを一つ一
つ押さえていこう

間違えることで、
しっかり覚えるこ
とができるぞ



じゃーん
ぼく、デボンだよ

「デっくん」って
呼んでね

第 1 章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

1-I 医薬品概論

1 医薬品の本質

【★ 重要】

1-I 医薬品概論 ★

チェック □ □

問 1 「医薬品の本質」に関する記述について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品は人体にとって異物である。
- b 医薬品は期待される有益な効果をもたらすものであり、好ましくない反応を生じるものは医薬品に該当しない。
- c 人体に対して使用されない医薬品でも、人体がそれに曝されて健康を害することもある。
- d 医薬品は、人の疾病の診断、治療もしくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とするものであり、検査薬は含まれない。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

1-I 医薬品概論 ★

チェック □ □

問 2 「医薬品の本質」に関する記述について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべてが解明されていない。
- b 一般の生活者においては、薬剤師や登録販売者に相談しなくても、一般用医薬品の効能、効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることはない。
- c 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮する。
- d 健康被害の発生の可能性がなければ、製品回収等の措置がなされることはない。

1 (a, c) 2 (b, c) 3 (b, d) 4 (a, d)

1-I 医薬品概論 ★

チェック □ □

問 3 「医薬品の本質」に関する記述について、誤ったものはどれか。

- 1 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すれば保健衛生上のリスクは相対的に低いと考えられる。
- 2 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- 3 人体に対して使用されない医薬品の殺虫剤であれば、誤って人体がそれに曝されても、健康を害することはない。

3-II 呼吸器官に作用する薬

チェック

問 155 「生薬成分」の記述について、正しいものはどれか。

ヒメハギ科のイトヒメハギの根を基原とする生薬で、去痰作用が期待され、その摂取により糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、糖尿病が改善したと誤認されるおそれがある。このため 1 日最大配合量が原生薬として 1g 以上を含有する製品では、使用上の注意において成分及び分量に関連する注意として記載されている。

- 1 キョウニン 2 オンジ 3 ナンテンジツ 4 シャゼンソウ
5 キキョウ

3-II 呼吸器官に作用する薬 ★

チェック

問 156 「漢方処方製剤」の記述について、構成生薬としてカンゾウを含まないものはどれか。

- 1 半夏厚朴湯 2 柴朴湯 3 麦門冬湯 4 五虎湯 5 麻杏甘石湯

2 口腔咽喉薬と含嗽薬

3-II 呼吸器官に作用する薬 ★

チェック

問 157 「口腔咽喉薬・含嗽薬」に関する記述について、正しい組合せはどれか。

- a 口腔咽喉薬は、口腔内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的とするものである。
- b 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- c 声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として、ベンゼトニウム塩化物が用いられる。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬は、局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身性の重篤な副作用を生じることはない。

	a	b	c	d					
1	正	正	誤	誤	2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正	4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤					

登録販売者試験対策問題集 改
手引き(平成 30 年 3 月)対応



登録販売者試験の 作問パターン

だから、“手引き”の文章の加工パターンを知っておくと、有利だよ

こっそり教えるね



登録販売者試験の問題は、

厚生労働省の“手引き”の文章を加工して作問されるんだ

＜作問パターンA＞ おかしな用語への置き換え

設問の文中、おかしな用語に置き換わっている場合があります。これは登録販売者試験問題の一般的な作問方法となっています。

実例 A 1 外皮系に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 皮脂腺には、腋窩(わきのした)などの毛根部に分布するアポクリン腺(体臭腺)と、手のひらなど毛根がないところも含め全身に分布するエクリン腺の二種類がある。
- 2 皮脂の分泌が低下すると皮膚が乾燥し、皮膚炎や湿疹を起こすことがある。
- 3 メラニン色素は、表皮の最下層にあるメラニン産生細胞(メラノサイト)で産生され、太陽光に含まれる紫外線から皮膚組織を防護する役割がある。
- 4 真皮には、毛細血管や知覚神経の末端が通っている。
- 5 皮膚に物理的な刺激が繰り返されると角質層が肥厚して、たこやうおのめができる。

答：1

- 1 汗腺には、腋窩(わきのした)などの毛根部に分布するアポクリン腺(体臭腺)と、手のひらなど毛根がないところも含め全身に分布するエクリン腺の二種類がある。

実例 A 2 消化器系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 胃粘液に含まれる成分は、小腸におけるビタミン B6 の吸収に重要な役割を果たしている。
- b ペプシノーゲン¹は、胃酸によってタンパク質を消化する酵素であるペプシンとなり、胃酸とともに胃液として働く。
- c 小腸の運動によって、内容物が消化液(膵液、胆汁、腸液)と混和されながら大腸へと送られ、その間に消化と栄養分の吸収が行われる。
- d 十二指腸の彎曲部には、膵臓からの膵管と胆嚢からの胆管の開口部があって、それぞれ膵液と胆汁を腸管内へ送り込んでいる。

a b c d

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 正 正 正 正 | 2 正 正 誤 誤 |
| 3 正 誤 誤 誤 | 4 誤 正 正 正 |
| 5 誤 誤 正 正 | |

答：4

- a 胃粘液に含まれる成分は、小腸における ビタミン B12 の吸収に重要な役割を果たしている。

実例 A 3 痔及び痔疾用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 痔瘻は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたもので、一般に「いぼ痔」と呼ばれる。
- b 裂肛は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態であり、一般に「切れ痔」(又は「裂け痔」)と呼ばれる。
- c 乙字湯、芍婦膠艾湯のいずれも、構成生薬としてカンゾウを含む。

a b c

- | | |
|---------|---------|
| 1 正 誤 正 | 2 正 正 誤 |
| 3 誤 正 正 | 4 正 誤 誤 |
| 5 誤 正 誤 | |

答：3

- a 痔核は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたもので、一般に「いぼ痔」と呼ばれる。

実例 A 4 目に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 結膜には光を受容する細胞(視細胞)が密集していて、個々の視細胞は神経線維につながり、それが束になって眼球の後方で視神経となる。
- b ビタミン A が不足すると夜間視力の低下(夜盲症)を生じることがある。
- c 眼瞼は、皮下組織が少なく薄くできているため、内出血や裂傷を生じやすく、また、むくみ(浮腫)等、全身的な体調不良(薬の副作用を含む)の症状が現れやすい部位である。
- d 涙腺は、上眼瞼の裏側にある分泌腺で、リンパ液から涙液を産生する。

1(a,b) 2(a,c) 3(a,d) 4(b,c) 5(b,d)

登録販売者試験対策問題集 改
手引き(平成 30 年 3 月)対応



模擬試験 2 回分

デックくんは、6割
しか正解できなかつたけど、

この模試からゴソッ
と出題されたので合格できたよ

だから、模試の復
習も大事なんだ



この模擬試験で7割
以上正解できれば、合格できるよ

8割以上なら、間
違いなく合格だ

登録販売者模擬試験 A (第1部)

- 1 第1部は、60問で次のとおりの構成です。
- ・医薬品に共通する特性と基本的な知識 (問1～問20)
 - ・人体の働きと医薬品(問21～問40)
 - ・薬事関係法規・制度(問41～問60)
- 2 試験時間は、120分間です。

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

- 問1 医薬品の本質に関する記述について、正しい組み合わせはどれか。
- a 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の知見の積み重ねによって有効性、安全性等に関する情報が集積されており、随時新たな情報が付加されるものである。
 - b 検査薬は、その検査結果について正しい解釈や判断がなされなければ、医療機関を受診して適切な治療を受ける機会を失うおそれがある。
 - c 一般の生活者においては、薬剤師や登録販売者に相談しなくても、一般用医薬品の効能、効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることはない。
 - d 健康被害の発生の可能性がなければ、製品回収等の措置がなされることはない。
- 1(a,b) 2(a,c) 3(b,c) 4(b,d) 5(c,d)
- 問2 一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。
- a 製品に添付されている文書や製品表示には、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が記載されている。
 - b 購入者が適切に選択し、適正に使用するためには、販売に専門家が関与し、購入者が知りたい情報を十分に得ることができるように、相談に対応することが不可欠である。
 - c 販売に従事する専門家は、常に新しい有効性、安全性等に関する情報の把握に努める必要がある。
 - d 市販後には、有効性、安全性等の確認が行われる仕組みはとられていない。

- | | a | b | c | d | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 正 | 2 | 正 | 正 | 正 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 | 4 | 正 | 誤 | 正 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 正 | | | | |

- 問3 医薬品のリスク評価に関する記述について、正しい組み合わせはどれか。
- a 少量の医薬品投与であっても、長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合がある。
 - b 新規に開発される医薬品のリスク評価は、GPSPに準拠して薬効-薬理試験や一般薬理作用試験等が実施されている。
 - c ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的にGCPが制定されている。
 - d GVPは、医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施基準である。

- | | a | b | c | d | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 | 2 | 正 | 誤 | 誤 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 | 4 | 正 | 誤 | 正 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 正 | | | | |

- 問4 食品に関する記述について、正しい組み合わせはどれか。
- a 機能的表示食品は、疾病に罹患している者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨(疾病リスクの低減に係るものを含む)を表示するものである。
 - b 特定保健用食品については、特定の保健機能の表示が許可されている。
 - c 栄養機能食品については、栄養機能の表示ができる。
 - d 健康補助食品には、カプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状で発売されているものも多い。

- | | a | b | c | d | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 正 | 2 | 正 | 正 | 正 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 | 4 | 正 | 誤 | 正 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 正 | | | | |

試験対策 484問 解答

<第1章>

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 正答：2

- b 医薬品は、必ずしも期待される有益な効果のみをもたらすとは限らず、好ましくない反応を生じる場合もある。
- d 殺虫剤や検査薬など、人体に対して使用されない医薬品もある。

問2 正答：1

- b 一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、その効能、効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることもあるので、その販売には専門家が関与し、適切な情報提供を行い、また、相談に対応することが不可欠である。
- d 医薬品医療機器法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等があってはならない旨を定めており、製造販売業者による製品回収等の措置がなされることもある。

問3 正答：3

- 3 人体に対して使用されない殺虫剤の中には、誤って人体がそれに曝されれば健康を害するおそれがあるものがある。

問4 正答：2

- d 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっており、それらの結果を踏まえ、リスク区分の見直し、承認基準の見直し等がなされる。

問5 正答：3

- b 医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積(かけ算)で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。
- c 薬物用量を増加させるに伴い、無作用量から、

最小有効量を経て治療量に至る。

問6 正答：1

問7 正答：2

- b 臨床試験における効果と安全性の評価基準として、国際的に GCP が制定されている。
- d 医薬品の製造販売後安全管理基準として GVP が定められている。

問8 正答：5

- a 機能性表示食品は、疾病に罹患していない者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨(疾病リスクの低減に係るものを除く)を表示するものである。

問9 正答：2 問10 正答：1

問11 正答：2

- a 医薬品の副作用は、薬理作用によるものとアレルギーに大別することができる。
- b 薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- c 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが解明されているわけではないため、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用が生じることがある。

問12 正答：3

- 3 一般用医薬品は、軽度な疾病に伴う症状の改善を図るためのものであり、一般の生活者が自らの判断で使用するものであることにかんがみて、副作用の兆候が現れた場合には、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先され、基本的に使用を中止することとされている。

問13 正答：3

- a アレルギーには体質的・遺伝的な要素もあり、アレルギーを起こしやすい体質の人や、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には注意が必要である。
- c アレルギーは、内服薬だけでなく外用薬等でも引き起こされることがある。
- d 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているもの(例:リゾチーム塩酸塩、タ

問157 正答：1

- c ベンゼトニウム塩化物は、殺菌消毒成分で、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑える。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された口腔咽喉薬や含嗽薬では、まれにショック(アナフィラキシー)のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。

問158 正答：3

- a 成分の一部が口腔や咽頭の粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- c アズレンスルホン酸ナトリウム(水溶性アズレン)：組織修復成分で、粘膜の修復を促す。

問159 正答：5

- a 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- b 妊娠中に摂取されたヨウ素の一部は血液-胎盤関門を通過するため、長期間にわたって大量に使用された場合には、胎児にヨウ素の過剰摂取による甲状腺機能障害を生じるおそれがある。
- c ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると、脱色を生じて殺菌作用が失われる。

問160 正答：2

【体力(虚実)に関わらず用いられる漢方】

- 甘草湯(かんぞうとう)
- 芍薬甘草湯(しゃくやくかんぞうとう)
- 大黃甘草湯(だいおうかんぞうとう)
- 驅風解毒散(くふうげどくさん)
- 驅風解毒湯(くふうげどくとう)
- 猪苓湯(ちよれいとう)
- 桔梗湯(ききょうとう)
- 響声破笛丸(きょうせいはてきがん)

(参考) 体力に関わらず用いられる漢方ごろ合わせ

カズは、
すべての感情と憎しみの冷凍を
教頭に強制された

体力カに関わらず用いられる漢方は、
すべての甘草湯かんじょう(甘草湯、芍薬甘草湯、大黃甘草湯)と
二つの驅く(驅風解毒散、驅風解毒湯)しみの
猪苓湯れいりょうを桔梗湯ききょうとうに響声破笛丸きょうせいされた

問161 正答：1

- c 消化薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする。
- d 乾燥水酸化アルミニウムゲルは、制酸成分で、中和反応によって胃酸の働きを弱める。

問162 正答：1

問163 正答：2

- 2 デヒドロコール酸：利胆成分で、胆汁の分泌を促す作用があるとされ、消化を助ける。

問164 正答：4

- a 制酸成分を主体とする胃腸薬は、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられるため、炭酸飲料等での服用は適当でない。

問165 正答：3

- a 制酸薬は、食前又は食間に服用することとなっているものが多い。
- c ジアスターゼは、炭水化物の消化促進効果を目的とする。

問166 正答：2

- b ロートエキス：抗コリン作用を示し、過剰な胃液の分泌を抑える。
- d テプレノン：胃粘膜保護成分で、胃粘液の分泌を促し、荒れた胃粘膜の修復を促す。

問167 正答：3

- 3 オウバク(黄柏)等の生薬成分は、味覚や嗅覚を刺激して反射的な唾液や胃液の分泌を促す。

問168 正答：1

- 1 オウゴン(黄芩)：シソ科のコガネバナの周皮を除いた根で、香りによる健胃、抗炎症作用が期待される。